

今週の為替相場見通し(2018年4月16日)

| 総括表 | | 先週の値動き | | | 今週の予想レンジ |
|----------|------|--------|-----------------|--------|-----------------|
| | | 注 | レンジ | 終値 | |
| 米ドル | (円) | | 106.62 ~ 107.78 | 107.34 | 106.00 ~ 109.00 |
| ユーロ | (ドル) | | 1.2261 ~ 1.2396 | 1.2330 | 1.2100 ~ 1.2400 |
| (1ユーロ=) | (円) | | 131.11 ~ 132.90 | 132.38 | 131.00 ~ 134.00 |
| 英ポンド | (ドル) | | 1.4080 ~ 1.4296 | 1.4236 | 1.4150 ~ 1.4400 |
| (1英ポンド=) | (円) | * | 150.48 ~ 153.86 | 152.83 | 152.50 ~ 155.50 |
| 豪ドル | (ドル) | | 0.7652 ~ 0.7810 | 0.7768 | 0.7650 ~ 0.7850 |
| (1豪ドル=) | (円) | * | 81.94 ~ 84.08 | 83.36 | 82.50 ~ 84.50 |

(データ)先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、*印の項目はブルームバーグ。

1. 米ドル

為替営業第二チーム 山本 一暁

(1)今週の予想レンジ: 106.00 ~ 109.00 円

(2)ポイント[先週の回顧と今週の見通し]

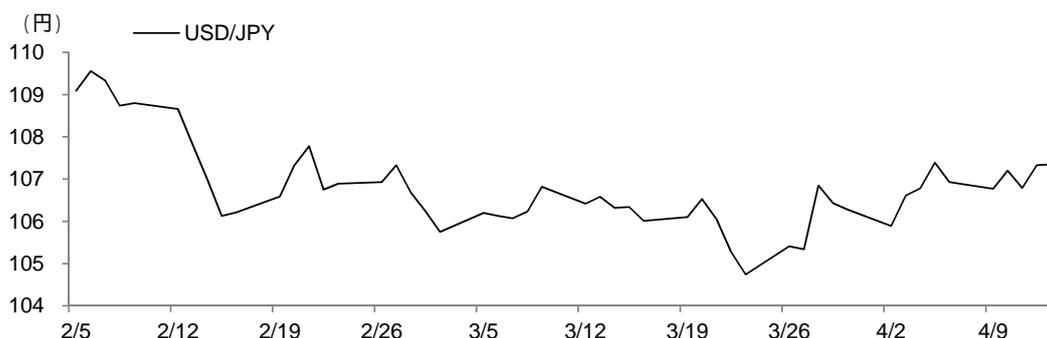
先週のドル/円相場は底堅く推移した。週初9日に106円台後半でスタートしたドル/円は107.20円までじり高となるも、トランプ米大統領の顧問弁護士コーエン氏のオフィスがFBIによる強制捜査を受けたとのヘッドラインに一時106.62円まで急落した。10日、アジアフォーラムでの習近平国家主席の演説では、自動車等の輸入関税引下げや外国企業への市場参入規制緩和等マーケットフレンドリーな内容に米中貿易摩擦懸念がやや和らぎ、ドル/円は107.24円まで急反発。しかし、米国がシリアへの共同軍事攻撃を検討していること等を背景にリスクセンチメントが悪化しドル/円は106円台後半に反落。その後、ユーロ/ドルの急落をきっかけにドル買いが強まると、ドル/円は107.40円まで再反発。トランプ大統領が習近平国家主席の演説に対する謝辞をツイートしたこともドル/円をサポートした。11日にトランプ大統領が「ロシアはシリアへのミサイル攻撃に備えよ」とツイートすると、地政学リスクが再び高まり106.70円台に下落。その後も、シリア情勢への懸念から円買い需要は強く、ドル/円は106.65円までじり安となった。FOMC議事録は、従来よりも早いペースでの利上げが適切との見解と、貿易摩擦による米景気の下振れリスクへの言及から、ドル/円は方向感が定まらなかった。12日は、トランプ大統領のツイートがトーンダウンしたことを受けてリスクオフムードがやや後退する中、ドル/円はクロス円主導で107.43円まで上昇した。13日には、ドル/円は上値目処として意識された107.50円を上抜けると、海外時間には週高値107.78円まで上値を伸ばした。週末を控え、米株が上げ幅を縮小し、米債が一部買い戻されるとドル/円も107円台前半まで売り戻されて越週した。

今週のドル/円相場は通商問題や地政学リスクを巡り神経質な展開を予想。今週は16日(月)に米3月小売売上高、NY連銀製造業景気指数、18日(水)にベージュブック、19日(木)にフィラデルフィア連銀景況感指数等が発表される他、複数のFEDメンバーの講演が予定されている。また、17~18日に日米首脳会談が開かれる。米経済指標や米企業決算から米経済のファンダメンタルを確認することもさることながら、短期的には地政学リスクや米国を中心とした貿易摩擦問題の動向に一喜一憂する展開が見込まれる。週末に米国主導でシリア攻撃が開始されており、ロシアとの緊張が更に高まる事態になれば一層リスク選好度は低下し円買い材料となる。また、日米首脳会談では本邦の対米貿易削減要求が出ることも想定され、日米貿易摩擦を背景とした株価下落が、ドル/円の下値警戒感につながりそうだ。仮にシリア情勢の早期沈静化や米国のTPP復帰期待等があれば、ドル/円は108円抜けを目指して反発するだろう。

(3)先週までの相場の推移

先週(4/9~4/13)の値動き:

安値 106.62 円 高値 107.78 円 終値 107.34 円



(資料)ブルームバーグ

2. ユーロ

(1) 今週の予想レンジ: 1.2100 ~ 1.2400 131.00 ~ 134.00 円

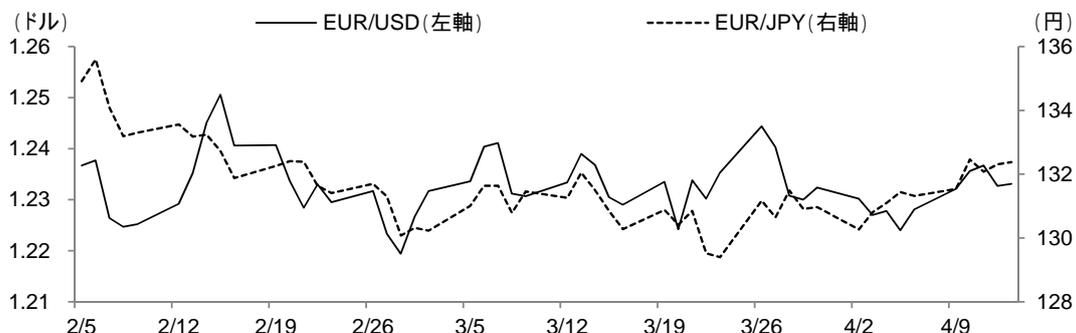
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のユーロ/ドルは底堅い展開となった。週初9日、1.22台後半で取引を開始したユーロ/ドルは週最安値1.2261を付ける場面も見られたが、ドラギECB総裁が「2018年のユーロ圏の経済は引き続き強い」とタカ派の発言をしたことからユーロ買いの流れとなり、1.2331まで上昇。10日、ノボトニー・オーストリア中銀総裁が利上げに前向きな見解を述べたことでユーロ/ドルは1.2378まで続伸。その後、ECB広報部から上記の発言は個人的な見解との報道が出たことで1.2325まで反落する場面も見られたが、すぐに1.23台半ばまで値を戻す展開。11日、トランプ米大統領が「ロシアはシリアへのミサイル攻撃に備えるべき」とツイッターに投稿したことからドル売りの展開にユーロ/ドルは週高値となる1.2396まで上昇。その後、FOMC議事録が公表され、ドル買いの流れとなったことで1.2347まで反落した。12日、ユーロ圏2月鉱工業生産が予想を下回ったことやECB議事要旨がハト派と捉えられたことでユーロ/ドルは1.2299まで下落するも、13日には米金利が低下したことからユーロドルは1.2346まで上昇し、1.23台前半で越週した。先週のユーロ/円は上昇した。週初、131円台前半で取引を開始したユーロ/円は週最安値131.11円まで下落する場面も見られたが、ユーロ/ドルの上昇に連れ高の展開となり、10日には132.61円まで上昇。12日、ECB議事要旨を受けて一時131.81円まで下落する場面も見られたが、ドル/円の上昇に連れ高となり、すぐに132円台を回復。13日、ユーロ/円はドル/円とユーロ/ドルが上昇する展開に週最高値132.90円まで上昇し、132円台半ばで越週した。

今週のユーロ相場は上値の重い展開を予想する。まず先週発表されたECB議事要旨は「インフレが持続的だとの証拠は不十分」「緩和バイアス削除は誤解されるべきでない」との文言が含まれており、ECB理事会がユーロ高を牽制したい様子が見て取れる。ECBは国債買入額上限などの限界にも直面していることから緩和縮小は続くと考えられるが、利上げは来年と予想される中、テーバリング観測の高まりによるユーロ買いの流れは限定的だろう。地政学リスクに目を向けると、週末に米政府がシリアにミサイル攻撃を実施したものの、攻撃回数は1回であることやロシアとアメリカが軍事衝突する可能性は低いと考えられることからリスクオフの展開は一時的なものに留まると考える。実際、週明け16日早朝の市場動向を見ると、過度なリスクオフの展開にはなっていない。シリア情勢が落ち着きリスクオンからのドル買いの流れも加わることで、今週のユーロ/ドルは下落すると予想する。今週の重要指標は17日(火)に独4月ZEW景気期待指数とユーロ圏4月ZEW景気期待指数、18日(水)にユーロ圏3月CPI確報値、20(金)にユーロ圏4月消費者信頼感の発表が予定されている。

(3) 先週までの相場の推移

先週(4/9~4/13)の値動き: (対ドル) 安値 1.2261 高値 1.2396 終値 1.2330
(対円) 安値 131.11 高値 132.90 終値 132.38



(資料)ブルームバーグ

3. 英ポンド

(1)今週の予想レンジ: 1.4150 ~ 1.4400 152.50 ~ 155.50 円

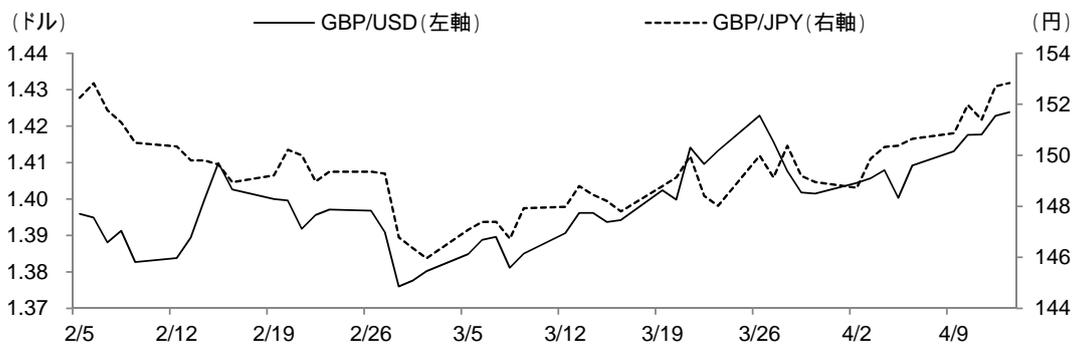
(2)ポイント[先週の回顧と今週の見通し]

先週の英ポンド相場は英国要因というよりも、米中の貿易戦争及びシリア地政学リスクの増大を背景とした主要通貨市場におけるドル売りの流れを受け、堅調な推移となった。週初はシリア化学兵器疑惑、米国の対露制裁範囲拡大を受けてロシアルーブルが暴落。また、中国は米国との貿易摩擦における対応措置として人民元の切り下げた場合の影響を検討とのヘッドラインにエマージング通貨が下落し、リスクオフムードが広がる中、ユーロ、円、英ポンドなどのメジャー通貨についてはドル売りで反応。10日にはマカファーティ 英中銀委員の「追加利上げを遅らせるべきではない」との発言も後押しし、ポンド/ドルは1.41台後半まで上伸した。12日にはデービス欧州連合離脱担当相から、英国の金融サービス業の大部分がEU離脱を無傷で切り抜けるとの見方を示すものの、英ポンド相場への影響は限定的となった。むしろその後には発表されたECB議事録を受けてユーロが売られたことにより、ユーロ/ポンドがサポートになっていた0.87を下抜けるとストップを巻き込みポンド買いが加速。マーケットのガンマ不足も手伝いポンド/ドルは1.4247まで上昇した。明けて13日も前日の流れを引き継ぎポンド買いが継続。米のシリア攻撃先送りや、予想を上回る米大手銀行の決算を受けて米株が堅調に推移する中、英ポンドも上昇。ポンド/ドルは1.4297、ユーロ/ポンドは0.8628、ポンド/円は153.85円と週の高値を付け、各通貨に対し強含みとなる中での越週となった。

今週の英ポンド相場は底堅い展開を予想。先週の値動きから通貨オプション市場におけるポンド/ドルの1か月物リスクリバーサルがポンド下落方向の買いからポンド上昇方向の買いへと反転。市場のポンド上昇への警戒感が相応に高くなっていることが示唆される。また、本邦大手製薬会社による英製薬会社への大手買収案件について新たに主要行に買収資金借り入れを打診、という報道もポンド買いへの後押しとなる。注目のイベントとしては、17日(火)に予定されている英2月失業率と、18日(水)の英3月CPIがあげられる。特にCPIについては、10日に英ガス・電力大手が5.5%の値上げをすることを発表。また英大手携帯会社も通信回線費用を3.6%値上げするなど、各所においてインフレの兆候が見られており、指標の結果によってはBOEの利上げが想起されることから注目の指標となる。懸念点としてはスパイ毒殺未遂事件に端を発した英露関係の悪化であろう。ロシアは元スパイの娘を英国が強引に拘束、あるいは声明をねつ造していると表明。また、シリアにおける化学兵器攻撃を英政府が支援しているとも表明するなど強硬に反発しており、英露関係は混迷の度合いを深めていることから今後の動向が注目される。

(3)先週までの相場の推移

先週(4/9~4/13)の値動き: (対ドル) 安値 1.4080 高値 1.4296 終値 1.4236
(対円) 安値 150.48 高値 153.86 終値 152.83



(資料)ブルームバーグ

4. 豪ドル

(1)今週の予想レンジ: 0.7650 ~ 0.7850 82.50 ~ 84.50 円

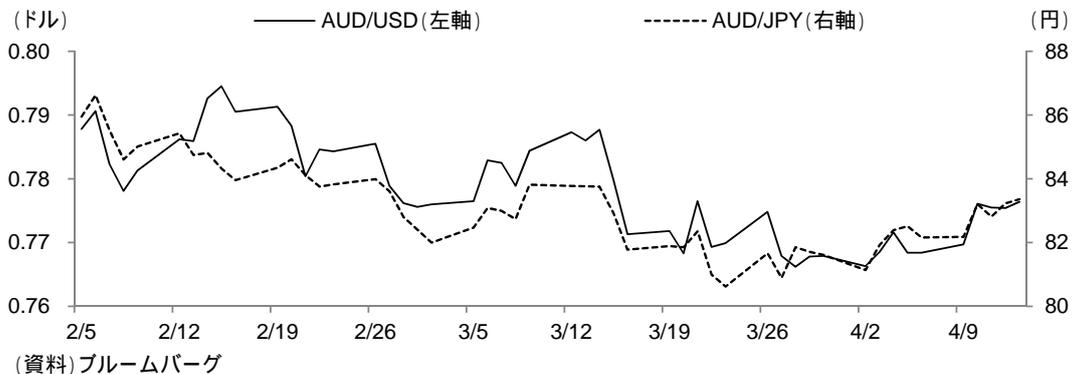
(2)ポイント[先週の回顧と今週の見通し]

先週の豪ドル相場は、堅調推移となった。9日、豪ドルは0.76台後半でオープン。「中国が貿易対立の対抗手段で、人民元の引き下げ検討」とのヘッドラインもあり新興国通貨でのUSD買いに連れて豪ドルは週安値の0.7652まで下落。しかし、米中貿易絡みの新たな緊張の高まりがなかったことで豪ドルは海外時間に買い戻され0.77台まで反発した。10日、注目された習近平中国国家主席の博鳌アジアフォーラムでの演説で、対話が問題解決の方法と述べたことを受けて米中貿易問題に対する懸念が後退。豪ドル/円の買い戻しに連れて豪ドルは0.7700近辺から0.77台半ばまで上昇した。11日、シリア情勢、米露関係悪化懸念に市場の警戒感が高まり、株式市場が下落するなどリスクオフムードとなったが、豪ドルは0.77台半ばでの小幅な推移となり、地政学リスクを注視する展開となった。12日、アジア時間では引き続きシリア情勢を警戒する動きに豪ドル相場は方向感のない中、0.77台半ばでの推移。欧州参入後に0.7740割れまで下落するも、「ロシア大統領府からのシリア情勢緊迫感を引き上げない意思や米露首脳電話会談の可能性示唆」に加えて、「トランプ米大統領:シリア攻撃の時期、すぐかもしれないし、全く後かも知れない」との米露関係悪化懸念が後退するとクロス円反発の動きに豪ドルも反発。しかし、反発の勢いもなく引き続き0.77半ばでのみみ合いの展開となった。13日、「トランプ大統領、TPP復帰の可能性支持」との発言もあり貿易摩擦懸念も一段と後退、シリア情勢の地政学懸念も後退したことも影響しリスク選好の動きから豪ドル/円が大幅上昇。豪ドル相場も週高値の0.7810をつけた。しかし、NY時間に株式市場が下落に転じ、豪ドルも0.77台半ばまで反落し越週した。

今週の豪ドル相場は上値の重い展開を予想する。先週は、米中貿易摩擦リスク、シリア情勢の地政学リスクの後退を受けて豪ドルは堅調推移となったが、200日長期移動平均線付近で止められ反落して越週している。過度なリスク回避の巻き戻しから反発の動きがみられているものの、引き続き市場参加者の警戒感は強く、株式市場のボラティルな相場が続いていることからリスク選好の動きが続くとは考えにくい。また、貿易戦争懸念を受けて鉄鉱石価格が軟調推移していることから、ここから豪ドルがさらに反発するのは難しく、上値の重い展開となると予想する。

(3)先週までの相場の推移

先週(4/9~4/13)の値動き: (対ドル) 安値 0.7652 高値 0.7810 終値 0.7768
(対円) 安値 81.94 高値 84.08 終値 83.36



当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。